

## 平成 25 年度特別研究生審査書

審査希望 テーマ	(No. 37 ) 原子炉炉心核特性評価に関する研究
学生 平成 25 年 4 月 1 日時点	日本原子力大学大学院 理工学研究科 原子力専攻 博士後期課程 2 年 (氏名) 特研 小太郎
指導教授	日本原子力大学大学院 理工学研究科 (職名) 教授 (氏名) 機構 力
加入学会名	日本計算科学学会、日本原子炉学会
資格、免許	放射線取扱主任者第 1 種 (筆記試験のみ)・危険物取扱主任者乙 3 種
外国語能力 (外国語の種類 及び程度につ いて記入くださ い。)	英語検定 <input type="checkbox"/> 英検 ( 級)、 <input type="checkbox"/> TOEFL (スコア )、 <input checked="" type="checkbox"/> TOEIC (スコア 710 )、 <input type="checkbox"/> IELTS (スコア )
	その他の検定 外国語 ( ドイツ語 )、検定名 ( 独検 ) スコア ( 準 1 級 )
	検定なし (英検審査基準に沿った 表現で記載)
研究 発表 記録 ※ 1	研究 ・ 開 発 成 果
<p>【論文発表】 2 件 (別途、論文リスト及び主な既発表論文の写しを添付すること) (代表 5 件まで、著者、題目、雑誌名、発表年)</p> <p>(和文の例)</p> <p>1)特研小太郎、機構力、他 5 名、「原子炉システムにおける確率論的安全評価方法の検討」、 日本原子炉学会誌 V2 (3) pp319-325、2010 (英文の例)</p> <p>2)T.Tokken, R.Kiko et. al., “A Study on Electric Characteristics of Small Silicon Semiconductor in Neutron Field for Radiotherapy”,J. Nucl. Rad. Med. vol.3,pp265-272, 2011</p> <p>【口頭発表】 10 件 (代表 5 件まで、著者、題目、発表先、発表年)</p> <p>(和文の例)</p> <p>1)特研小太郎、機構力、他 2 名、「原子炉システムにおける確率論的安全評価アルゴリズム」、 第 52 回日本原子炉学会年会、北海道大学、2010 年 10 月 2)特研小太郎、機構力、他 6 名、「ベクトル計算機を用いた原子炉確率論的評価法」、第 12 回日本計算科学学会、東京大学柏キャンパス、2010 年 5 月 (英文の例)</p> <p>3)T.Tokken, R.Kiko et. al., “Electric Characteristics of Silicon Semiconductor Detector for Radiotherapy with Neutron”, ICSD-2010,Tokyo, Japan, 2010 4) T.Tokken et. al., “A Study of High-Frequency Performance in Small Silicon Semiconductor Detector for Radiotherapy”, 7<sup>th</sup> int conf meas, Kyoto, Japan, Oct.,2010 5) T.Tokken et. al., “New Device Made from Doped Silicon with Neutron”, 8<sup>th</sup> int conf meas, Seoul, Korea, Oct.,2011</p> <p>【受賞】 1 件 (代表 5 件まで、題目、発表先、著者、発表年)</p> <p>1)「原子炉システムの確率論的安全評価システムの構築」、日本原子炉学会奨励賞、特研太 郎、平成 23 年 10 月</p> <p>【特許等】 1 件 (代表 5 件まで、特許番号、特許名、発明者、出願年)</p> <p>1)特開 2011-451xx 高感度シリコン半導体検出器製造方法、特研太郎、平成 21 年</p> <p>【科研費等】 1 件 (代表 5 件まで、種目、課題名、代表者、研究期間、採択年)</p> <p>1) 奨励研究、「確率論的評価手法と高感度検出器を用いた放射線量制御法の開発」、機構力、 平成 21 年度～平成 22 年度、平成 21 年</p>	

※1. 研究発表記録欄は、論文、口頭発表等をそれぞれ 5 件以内で記入してください。

学部 卒業 論文	題目	対象：全員
	概要	博士課程、修士課程に進級する 4 年生は、提出予定の論文の内容を記載してください。 卒業論文がない大学の場合は、その理由を御記入ください。
修士 論文  (博士後 期課程以 上)	題目	対象：博士前期課程及び修士課程修了見込、博士後期課程在学者、大学院研究生
	概要	博士後期課程に進級する方は、提出予定の論文の内容を記載してください。 一貫制博士課程等で修士論文がない場合は、その理由を御記入ください。
博士 論文  <input type="checkbox"/> 博士後期 課程中に発 表した主論 文 <input type="checkbox"/> 博士論文 (修了又は 修了見込の 者)	題目	対象：博士後期課程、一貫制博士課程在学者、大学院研究生
	概要	「博士後期課程中に発表した主論文」、又は「博士論文（修了又は修了見込の者）」のどちらかをチェックして、論文の内容を簡素にまとめてください。
現在の 研究 テーマ	題目	対象：全員
	概要	「現在の研究テーマ」には上記、学位論文等の研究課題にとらわれず、広い視点で自分を研究テーマの現状、課題、展望を含めてまとめてください。

## ●研究計画（以降、最大 A4 5 ページまで）

機構において行う研究活動について、御記入ください。A4 で5枚までページ数を増やしていただいても結構です。審査時、被申請者に内容を確認しませんので、内容が正確に伝わるよう文章を構成し、誤字脱字がないようお願いいたします。

提案研究 課題名 上記テーマ 内で提案 する課題	別添1の研究テーマの中で、今回、提案いただける具体的な研究課題名を設定してください。
研究期間	平成25年5月1日 ～ 平成26年3月31日
研究課題 の 概要	目的、方法、想定される結果や波及効果等をまとめてください。
研究目標  具体的な達成 したい研究目 標を設定する	数値目標、研究のエンドポイントなど具体的な達成目標を掲げてください。
審査希望 テーマと 研究課題 の 関連性	マッチングが大切ですので、選択した研究テーマと提案される研究課題との関係を御説明下さい。

<p><b>研究計画</b></p> <p>いくつかの期間に分けて、実験、解析、学会発表など研究活動の内容が分かるように記載</p>	<p>予算にも関わるところですので、製作費、旅費等が分かるように制作したい実験器具や学会発表先が分かるように計画してください。</p>
<p><b>参考文献</b></p> <p>補足説明するために参考文献を記入</p>	<p>番号を付けてい頂いて、引用できるように配慮願います。</p>

(研究計画については最大 A4 5枚まで)